① ハウスナンバー「32」

野嵩収容所内・・・ここは宜野湾に唯一残るハウスナンバーです。米軍が、捕虜となった民間人を収容するために収容所を設置し、焼け残った家々に１号、２号と番号を打っていきました。これをハウスナンバーといい、収容所での住所の役割を果たしました。保護された住民は、収容所内に配置された区長からハウスの割当てを受けた後に警察へ行き、ハウスナンバーと氏名の登録をすると、食糧や衣服などの配給を受けることができました。屋敷一軒には多くの人が住まわされていました。米軍の進攻が本島を南下するにつれて、収容所に保護される人びとも那覇出身者など、他市町村の出身が多くなりました。

注：ここは住宅地になっていますので、見学の際は十分、注意してください。

② ＭＰ事務所

MP（ミリタリーポリス）とは、米軍の警察のことを言います。MP の主な仕事は野嵩地域の警戒で、他所から入ってきた米兵の取り締まりをしていました。屋敷には、番舎にも床を張り、ベッドなどを置いて宿舎にしていました。MP は夕方になると、ヒンプン（※）にビール缶を置き、その缶を銃で撃って遊んでいたようです。MP 事務所の移転後は、ＣＰ（シビリアンポリス。民間の警察）の事務所になりました。

注：ここは住宅地になっていますので、見学の際は十分、注意してください。

※：ヒンプンとは家の門の内側にある目隠しで、
魔除けとしての役割を持っていました。

▲ハウスナンバー「32」

▲MP 事務所に使用された屋敷

③安仁屋の避難壕

安仁屋集落は、現在昔の面影はなく、キャンプ・ズケラン内（米軍基地内）に眠る集落です。1945（昭和 20）年４月に米軍が上陸してきた時には、主に次の３ヵ所に避難していました。

1．集落より北東に位置する所で、普天間のチュンチュンガー小一帯に各々壕を掘って避難していました。
2．前ハヌルといい、集落の南東側一帯の墓や岩陰、洞窟などに避難していました。
3．東側のソン山一帯に自分たちで掘った壕や墓の中に避難しました。

４月１日に米軍が上陸し、その日の夜半には集落まで進攻してきました。壕などに避難していた人びとは、米軍上陸、２～３日後には捕虜となりました。

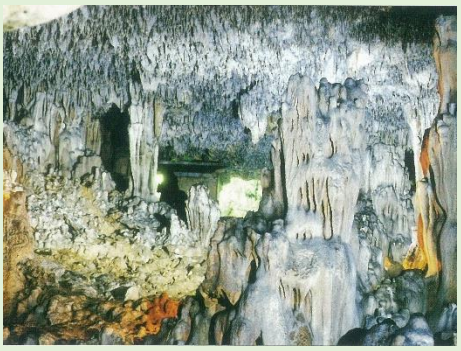
※：現在基地内にあり、見学することはできません。

④シマヌカー

新城の避難壕で普天間飛行場内にあり、「アラグスクガー」とも言います。戦時中、このガマには、約 300 人が避難していました。米軍上陸５日目に避難していた住民が米兵に見つかり、青年から年寄りまで竹槍のような物を持って、「米兵が入ってきたら竹槍でやろう」と騒いでいました。しかし、幸いにもハワイ帰りの方がいて、米兵と話をして捕虜となり無事助かりました。

⑤フトゥケーブ

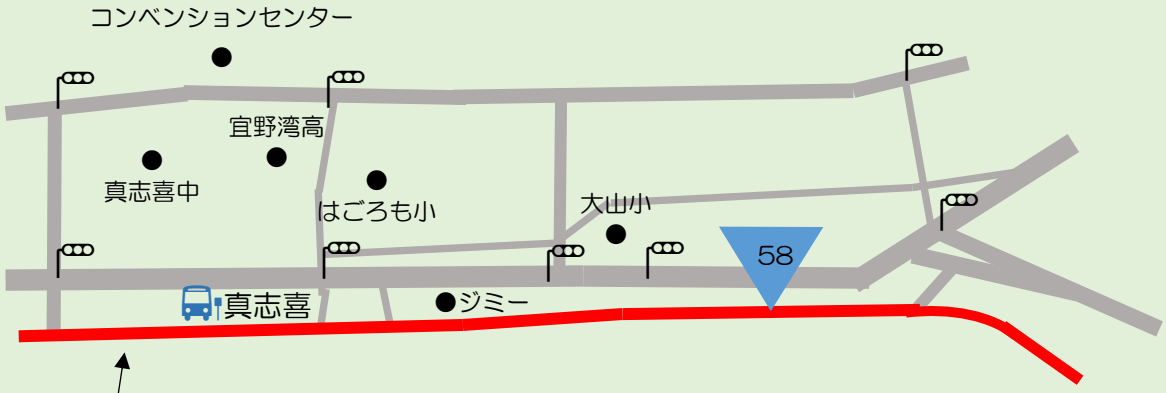
喜友名の避難壕で平成 27 年に返還された西普天間内にあります。洞窟付近は木が茂り、入口には人工の階段が設けられ、拝所となっています。戦時中、米兵が手りゅう弾のような物を壕内に投げ込みましたが、避難していた人びとは岩陰に隠れていたこともあって無事でした。その後、ハワイ帰りの２世と米兵が入口から「もう、戦は負けているから、出て来なさい」と呼びかけ、翌日そこから出され捕虜となりました。しかし、洞窟内には防衛隊員が１人銃をもって逃げ込んでおり、その防衛隊員の「米兵に捕まったら、何をされるか分からない」という言葉を信じた 17～18 歳の少女４～５人が壕から出なかったため殺されてしまいました。

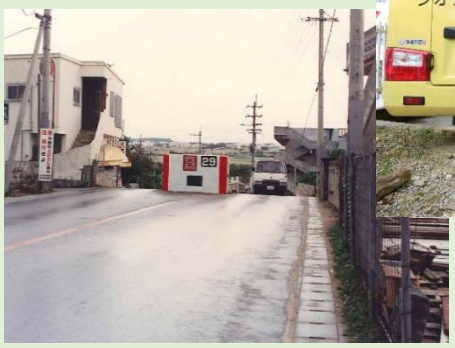


※：見学することはできません。

⑥パイプライン

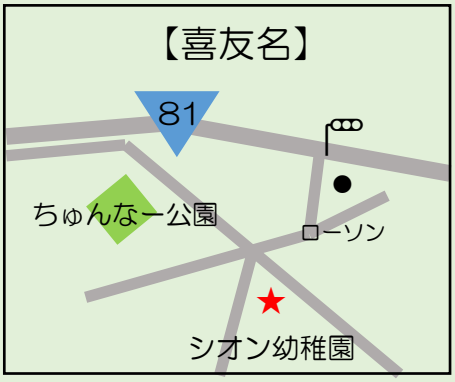
米軍は戦後、基地と基地の間に燃料を運ぶパイプをつなぎ、軍油線道路を設置しました。それがパイプラインです。現在はすでにパイプは撤去されていますが、当時の標識が喜友名に残っています。パイプラインの名前があった道路はそのまま残っており、市民が日常的に利用している道路になっています。





▲パイプが撤去される前の道路
中央の箱型はバルブボックス（喜友名）

▲今も残る
パイプライン標識



⑦ケレンケレンガマ

自然壕で普天間飛行場内北端にあるケレンケレンガマの壕には、主に伊佐の住民が避難していました。壕での食事は、近くの畑からとったサトウキビ、非常用のデンプン、炒った豆、砂糖等を食べていました。水は、鍾乳石からしたたり落ちる水滴をビン等に溜めて確保していました。米軍が上陸して1週間後にハワイ帰りの方がガマに入ってきて「捕虜になるように」と呼びかけてきました。壕内では竹槍等を持って戦うつもりでいましたが、説得されてやがて捕虜になったそうです。

※：現在基地内にあり、見学することはできません。

⑧マヤーアブ

森川公園内の西森御嶽後方にあり、戦時中は真志喜集落の住民約 300 人が避難していました。真志喜の避難壕は、この洞窟1 ヵ所と決まっていたので、他の集落の人は原則として中に入ることができませんでした。壕での生活は、夕方になると畑に芋掘りに行き、水は壕の外に「森の川」の泉があったので不自由しませんでした。４月９日頃、米軍が大きなライトを照らし、２世の方を通じて「殺さないから、助けに来たので壕から出なさい」と呼びかけ、みんな恐る恐る壕から出て捕虜となりました。

注：御嶽の後方にあり、地域の神聖な場所となっています。足元が悪くハブがでる恐れもあり危険なため、入らないでください。

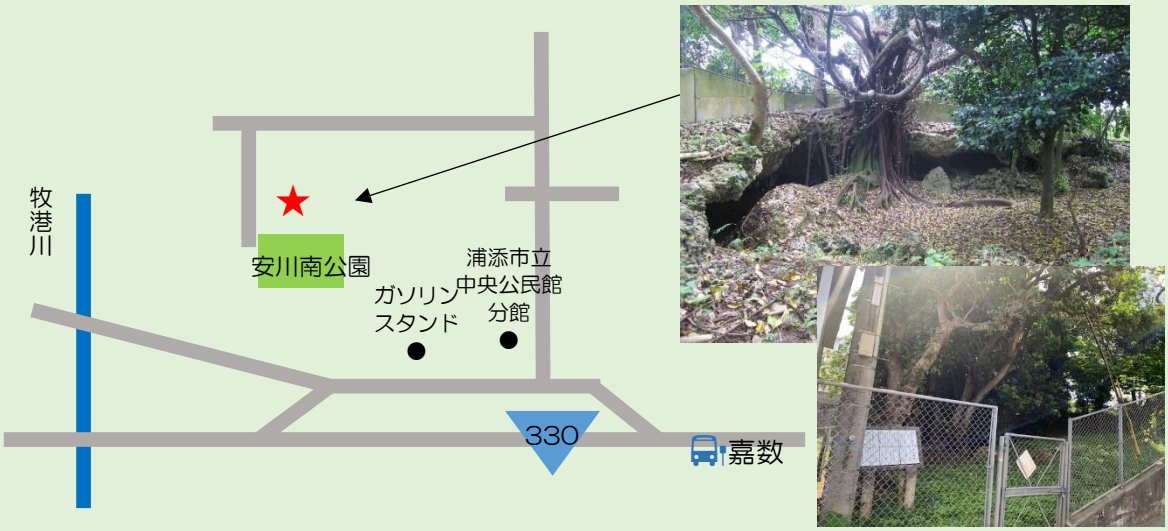
▲マヤーアブ顕彰碑

⑨大謝名の避難壕

米軍上陸の情報が伝わると壕を掘る準備に取りかかり、メーガーラ（比屋良川）の谷が一番良い場所だと、数多く掘られました。メーガーラの壕は南向きで嘉数高台陣地の斜面にあるためか、米軍も近くまでは寄りつけませんでした。しかし、高台の陣地が陥落し、日本軍がメーガーラの谷に後退してくると、米軍の進攻により、住民は米兵に何度も壕から出るように呼びかけられ、恐る恐る出てきて捕虜となりました。壕から出たのは、1945（昭和 20）年４月の半ば過ぎでした。

⑩チヂフチャーガマ（浦添市）

戦時中は嘉数住民が防空壕として使用しており、集落の人口の半分以上がここに避難していたといわれています。1945（昭和 20）年３月頃から、このガマに出入りしていたようですが、同年４月２日頃、日本の兵隊が来て「敵が近くまで来て危険なので南部に避難するように」と言われ、ほとんどの住民が移動しましたが、お年寄りと一部の人びとは残りました。４月の末頃、米軍によって毒ガス弾を投入されたものの、ガマに残っていた約 30 人中 11 人は助かりました。



⑪嘉数病院壕（浦添市）

国道 330 号沿い浦添第４橋付近にある壕です。嘉数病院壕内の医療活動については不明ですが、嘉数高台で陣地壕掘りの奉仕作業をしていたという人の話では、艦砲で怪我をした伍長が運ばれてきたとき、医師が２人、看護婦が５～６人いたということです。

注：壕入口は私有地のため入ることはできません。

⑫佐真下部落の防空壕　（※：現在基地内にあり、見学することはできません。）

・ジルーヒジャグヮーガマ

この壕には、住民約 100 人が避難しており、内部はたくみに擬装された迷路が準備され、非常用に縦穴まで作ってありました。いつの間にか日本の兵隊も入ってきましたが、部隊の将校は日本刀を振りかざし「米軍の捕虜になる者はこの刀で斬り殺す」などと言い、その横暴ぶりに住民は怯えていました。４月 17 日、壕の外で米軍の２世から「出てこい」と呼びかけられても、息をころして誰一人応ずる者はいませんでした。しばらくして米兵が壕内に押し入って来ると、住民は非常用の縦穴から逃げましたが、20 人は壕内で捕虜となりました。

・アサトゥヌガマグヮー

この壕に避難していたおよそ 50 人のうち９割は佐真下の住民で、残りは喜友名の人びとでした。壕から水汲みに出た人、家へ食糧を取りに出た人の中で３人が流れ弾に当たって死亡し、３人が重傷を受けました。

ウブガー（佐真下公園内）
佐真下部落の防空壕の一つ
見学は入口だけにしましょう。

⑬我如古チンガーガマ

このガマに通じる縦穴（井戸）は洞内から５ヵ所確認されており、戦時中このガマには、主に我如古集落の４家族余りとその親戚、隣人等が避難していましたが、宜野湾村内の佐真下や志真志等の他集落、浦添の前田の人びとも避難していました。すでに野嵩収容所が設けられている頃、我如古の井戸内に住民が避難していることを分かっていた米軍は、収容所で働いていた我如古出身者の協力を得て、井戸の中に避難している住民に呼びかけ、壕内から救出したということです。

注：私有地にあり、普段は鉄板で覆われています。見学の際は事前に家主の許可が必要です。

⑭クマイアブ

米軍普天間飛行場境の畑の隅に洞窟の入口があり、洞窟の奥は粘土質で、水流もあります。洞窟内には戦時中に使用した空缶やビン等が散乱しています。戦時中、この洞窟には区長を含め約 50 人が避難しており、竹槍を持って飛び出した人や壕から自宅に帰ろうとした家族が、入口を出て間もなく米軍に射殺されました。避難していた住民はこのままでは、全員殺されると思い、白旗を作り最初に捕虜となりました。その後、人びとも壕を出て捕虜となりました。

注：私有地のため見学の際はマナーを守りましょう。
聖地にもなっているため、壕内には入らず
外から眺めるだけにしましょう。

⑮ティラガマ

米軍普天間飛行場内、旧神山集落の東側に位置しています。戦時中は避難壕として約 180 人が避難していました。1945（昭和 20）年３月頃から艦砲射撃が激しくなったため、終日足止めとなりました。この自然壕は飲み水が乏しく、住民は水の確保に苦労していました。壕内に残っていた人びとは、４月３日頃に捕虜となりました。

※：現在基地内にあり、見学することはできません。

⑯マーカーガマ

現在は普天間飛行場内にある自然の洞窟です。洞窟の長さは 200 メートル以上あり、途中で約 57 メートルが陥没しています。陥没部分より手前をマーカーガマといい、ここには、赤道の住民以外に大山や喜友名など他集落からの避難民を含め、約 300 人が避難していました。４月４日頃には捕虜となりましたが、マーカーガマで捕虜となった人は 50 人ほどで、その他の人びとは別の壕や南部へ逃げていきました。

※：現在基地内にあり、見学することはできません。

参考文献

『ぎのわん市の戦跡』（第２版）　宜野湾市教育委員会　2003

『宜野湾　戦後のはじまり』（第２版）　宜野湾市教育委員会　2016